

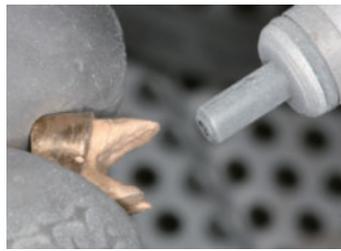
## 6-2. スーパーボンドの臨床応用例

### 4. 補綴物、支台築造体セット

#### 臨床例4-1 鑄造ポストコア、陶材焼付鑄造冠の装着



①術前。鑄造ポストコアごと脱落した状態で来院。残根状態で齲蝕部分が多いが、齲蝕部分を除去した結果、保存可能と判断した。



②鑄造ポストコアを作製した。装着前にサンドブラスト処理後、V-プライマー処理をする。



③歯質を表面処理材グリーンで処理した後、スーパーボンドの活性化液及び混和泥を根管及び窩洞面に塗布する。



④鑄造ポストコアにも活性化液と混和泥を塗布して挿入する。



⑤支台歯形成後。フェルールがほとんど無いことと審美性の回復の観点から、歯肉縁下に支台歯形成を行った。



⑥装着する陶材焼付鑄造冠の内面をサンドブラスト処理後、V-プライマー処理し、活性化液を塗布した。



⑦支台歯金属部分もV-プライマー処理し、活性化液を塗布。陶材焼付鑄造冠に混和泥を塗布し、装着直後の咬合面。



⑧5年経過。術前は残根状態の支台歯であったが、スーパーボンドの良好な接着力により、支台歯と補綴物が一体化し、現在まで脱落もなく、良好に経過している。

#### 臨床例4-2 前歯接着ブリッジの装着



①初診1990年2月、41歳女性。1欠損による審美、構音障害を主訴として来院。



②根管治療により歯根嚢胞が治癒しないため、抜歯に至り欠損が生じている。欠損部の近遠心径は通常の中切歯1歯分、顎提はいくぶん大き目に陥没。



③模型を作製し、口腔外で作製した接着ブリッジ。



④スーパーボンドで装着直後の口蓋側面。



⑤装着直後の唇側面。



⑥現在(2011年)の唇側面。装着後21年経過している。レジンの摩耗を認めるものの、現在も特に問題なく機能している。



⑦現在の口蓋側面。

### 臨床例4-3 インプラント修復時の暫間補綴物装着



① 歯根破折のため4を抜歯する。抜歯4ヶ月後の状態。2004年2月。



② インプラント埋入時。骨の裂開が存在したため、フィクスチャー埋入と同時に隣在歯の骨隆起から自家骨を移植する。



③ インプラント埋入後10日の状態。4抜歯直後にクラスプ様アームの接着ブリッジをスーパーボンドで装着し、隣在歯や対合歯の移動を予防し、咬合を回復する。



④ オペ時には一旦クラスプ様アーム接着ブリッジを除去する。オペ終了後ただちにポンティック基底部分を削除し、グラスイオノマーセメントで仮着する。抜糸後スーパーボンドで再度装着。再装着6ヶ月後の写真。



⑤ 同じく咬合面観。



⑥ フィクスチャー埋入後5ヶ月の二次オペ時の状態。骨の裂開は改善されている。



⑦ 術後5年経過後の頬側面観。

### 臨床例4-4 クラスプ様アームブリッジの装着



① 初診時正面観。2008年1月、全顎的に歯周病が進行している。



② 同咬合面観。



③ 同右側頬側面観。6はカリエスと分岐部病変の進行により保存不可能と診断、抜歯を行う。



④ 抜歯3ヶ月の咬合面観。歯周初期治療終了時。



⑤ 同右側頬側面観。欠損部の隣在歯は有髄歯で水平的骨吸収が進行している。



⑥ 2009年1月。歯牙の固定と連続性を確保し、歯牙の切削を避けるためクラスプ様アームとレストを有する接着ブリッジをスーパーボンドで装着する。アームは全てアンダーカット上に位置し、変形を防ぐため幅広く厚く設計している。



⑦ 45はインレー撤去後CR充填を行い、ポンティック部咬合面はメタルアップされている。